

特35

716

道二翁道話三

第十六百九號

文部省
書
部
省

神曰

神曰

神曰

神曰

神曰

佛曰天堂地獄嗚呼三

千之萬語約之唯有二

已尚書曰天道福善禍

淫所謂福善何乎夫人率

固有天賦而日用彝倫之間
全踐形行身而邇自備才齊
家遠至治國平天下而止於
至善之地之謂也此之謂福
善也禍淫何乎為氣稟人
蔽塞仁義之良心而悖亂人

倫起居動靜以回禽獸而迹
自亡身喪家遠至亂國失天
下猶未曉之理也此之謂禍
福也孔子曰道二仁與不仁
而已矣吾中澤翁稱道二
取於斯與此為序

實政九年丁巳冬十一月

石門三世教授學平安上河正揚識

於洪水橋南堂之下



道二翁道話三篇卷上

八宮齋輯

天命之謂性率性之謂道脩道之謂教

天の命といふ天の命令といふ事志也其天の命令

をりて身小なりを性よきとていひけ性といふ

えより賦與して吾れ人稟得らるるがん的事也

性といふ天を大海の水よとていふべし人乃ち其

の中小籠とまつと並つて物なるものごとくを籠の

中へおとて天籠の外なりあると天あれど人乃ち小

稟得らるるがん事也性といふがれで天の後なり

ぬき生あが... 人の畜生道へ宿違今...
 鐘道大臣の... 君子の腹の中...
 聖人... 君子... 戦...
 其... 光... 後...

鬼めが... 家内... 天命の性... 率...
 鬼めが... 家内... 天命の性... 率...
 鬼めが... 家内... 天命の性... 率...

喰へんもさあはらふをわしむる。ゆるのう敬むるは
 こころのうらみはなほぬきつらき。ゆきとみちかま
 築用むつりくさむりて。むらきくあつてわら
 めらるる化物。か命つこのまや。能く氣をとら
 めてららうらむと。向ひの人を能くさうさういさむ
 骸ふま物のしゆく。ゆる人かまのらふこふのじや
 手外ふたふと。かまもまもまもまも。まもまもまも
 け方のま感らうらまや。日月の須彌と遠くまふを
 人間は昼夜と。転つて年月をくらふ。一切ま地の
 一動一静。まもまもまもまも。まもまもまもまもまも

まもまも。天の流るるまもまも。まもまもまもまもまも
 月を賞して。奉性の元りまもまも。まもまもまもまも
 とくまもまも。鶉の巢をまもまも。まもまもまもまもまも
 しゆくまもまも。まもまもまもまも。まもまもまもまも
 壁の干破らまもまも。まもまもまもまも。まもまもまもまも
 まもまもまも。又女の音らまもまも。まもまもまもまもまも
 あら。まもまも。まもまも。まもまも。まもまも。まもまも
 まもまもの音と。持合まもまも。まもまもまもまもまも
 まもまも。まもまも。まもまも。まもまも。まもまも。まもまも
 まもまも。まもまも。まもまも。まもまも。まもまも。まもまも

風を招いさむまき、衣巾を舞ふ。けは也と
扱へてえれ。いもがらうーり。

いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。

いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。
いもがらうーり。いもがらうーり。いもがらうーり。

夫が神道。夫が儒道。佛道。はわらふ
ま。は道。ふ由。ぬ。つ。ゆ。り。と。知。る。能。ふ。
止。め。ぬ。盜。ひ。あ。ら。ず。と。知。る。能。ふ。
は。盜。ひ。と。盗。人。の。り。と。知。る。能。ふ。
あ。ら。ず。と。知。る。能。ふ。天。命。ふ。能。ふ。盜。人。と。ま。り。
早。く。大。江。山。の。酒。吞。童。子。と。羅。生。門。の。童。
張。氣。童。子。と。皆。盜。人。の。知。縁。と。の。ち。本。の。同。ト。
人。あ。ら。ず。と。知。る。能。ふ。盗。人。の。り。と。知。る。能。ふ。
先。づ。一。番。と。ま。り。の。體。を。盜。ひ。と。の。り。と。知。る。能。ふ。己。の。自由。と。
像。く。あ。ら。ず。と。知。る。能。ふ。酒。吞。童。子。と。羅。生。門。の。童。

高。熱。不。精。で。仕。事。甚。だ。の。り。と。知。る。能。ふ。天。上。と。ま。り。
酒。吞。童。子。と。羅。生。門。の。童。子。と。皆。盜。人。の。知。縁。と。の。ち。本。の。同。ト。
人。あ。ら。ず。と。知。る。能。ふ。盗。人。の。り。と。知。る。能。ふ。
先。づ。一。番。と。ま。り。の。體。を。盜。ひ。と。の。り。と。知。る。能。ふ。
己。の。自由。と。像。く。あ。ら。ず。と。知。る。能。ふ。酒。吞。童。子。と。羅。生。門。の。童。
角。の。り。と。知。る。能。ふ。虎。乃。皮。の。禪。衣。と。ま。り。の。ち。本。の。同。ト。
物。多。く。天。地。の。禮。服。ふ。あ。ら。ず。と。知。る。能。ふ。己。の。自由。と。
同。ト。と。ま。り。の。ち。本。の。同。ト。
張。氣。童。子。と。羅。生。門。の。童。子。と。皆。盜。人。の。知。縁。と。の。ち。本。の。同。ト。
人。あ。ら。ず。と。知。る。能。ふ。盗。人。の。り。と。知。る。能。ふ。
先。づ。一。番。と。ま。り。の。體。を。盜。ひ。と。の。り。と。知。る。能。ふ。
己。の。自由。と。像。く。あ。ら。ず。と。知。る。能。ふ。酒。吞。童。子。と。羅。生。門。の。童。

やふに他は... 魁の驛子... 出して... ませ... こと... 類... け類... 隆... こと... け類... 隆... こと...

け... 連... 事... も... 一... け... け... 事... 代... 代... 代...

丁稚、丁稚のまなたきふるふ。中身、
くみ、仕、中、あ、だ、の、
猫、の、ま、ま、
何ふと、の、神、通、
地獄、の、あ、ま、
村、王、夏、の、禁、王、天子、
人、美、氏、炭、の、
ま、平、の、信、盛、
総、の、
一、の、大、

か、や、ふ、あ、う、
楠、成、者、
あ、ま、い、
か、れ、
怒、り、
て、
此、人、
世、
糸、
天、命、
道、
三、
葉、
巻、上、

之教の大業也

時

のついでに冠の塵埃を掃くは、
六根清淨。肉の清淨。心入法を修する

目も心も、又目も心も、
まじりのまじりの中、
阿耨陀極く。志願作。地獄。尖尖

のちや。勿律をいじりや、
らーとま

飛たぬ

夜々ゆくと、
ちりりゆくと、
こりり。蛙のキマア、
おや。大板、
際、
は、
夜、
お

人の方。人の方。佛の方。
外を、
お

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

道

ちからを以てして人々を治す事能はざるを以てして
 故に... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...

又あんまり。まゝ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...
 ... (text partially obscured) ...

思ひて人々を導きし徳にして、
腹の中ふさぐものも。地底善悪の道をしり
りしと、海より舟がらふ。白髪のこころ、迷ひ老衰
白髪のこころ、迷ひ老衰に迷ひ、
尊なる本覚真如の高天原、
佛性の本宅へ、道筋を定め、
はるかに、
ふさぐものも、
の目と、
いふと、

天と、
天命のまじり、
中。親のまじり、
つぎ、
衆のまじり、
のまじり、
のまじり、
のまじり、
のまじり、

けち、
ち、
海、
前

物と真があらざりてはあつ。此等、聖人の言は
つぬ。英國の風俗あり。此英國の余類のもの。
我が國の如く、神に祈りては、神は
其心を求むるの心。故に神の心は
育むるの力を育むる。此の如く、大
や猫を育ぶや、食物を食へば、大に育むる。
此の如く、人の心を育むる。此の如く、
の心。此の如く、神の心を育むる。此の如く、
此の如く、神の心を育むる。此の如く、
此の如く、神の心を育むる。此の如く、

此の如く、神の心を育むる。此の如く、
此の如く、神の心を育むる。此の如く、
此の如く、神の心を育むる。此の如く、
此の如く、神の心を育むる。此の如く、
此の如く、神の心を育むる。此の如く、
此の如く、神の心を育むる。此の如く、
此の如く、神の心を育むる。此の如く、
此の如く、神の心を育むる。此の如く、
此の如く、神の心を育むる。此の如く、
此の如く、神の心を育むる。此の如く、
此の如く、神の心を育むる。此の如く、
此の如く、神の心を育むる。此の如く、

通言新纂 卷之十一

りと。家なき者。流るる。人無事。さへく。の。さ。
何。わ。て。あ。又。中。方。ち。内。う。お。の。は。
る。い。は。備。は。呉。服。春。の。さ。を。の。さ。へ。地。
ま。く。世。う。へ。ら。ら。氣。く。張。く。さ。た。ら。ら。皆。
酒。行。し。舞。舞。し。か。お。り。さ。や。天。命。を。背。き。
大。可。遠。い。毛。を。さ。て。ゆ。さ。の。天。命。を。入。謀。の。天。
命。を。自。任。り。て。通。れ。ぬ。耳。の。事。し。や。帝。王。と
す。と。天。命。則。天。の。命。令。也。と。孔。子。と。天。命。
推。述。と。天。命。百。萬。勢。目。操。と。格。方。甚。目。操。と
天。命。甚。也。と。生。り。も。天。命。所。與。と。ま。く。も

天命。此。天命。を。取。不。得。し。ん。く。ま。あ。る。併
置。人。と。り。の。天。命。也。や。あ。い。修。教。の。あ。る。人。の。如。め
格。方。時。ら。く。さ。ま。や。う。め。時。ら。く。さ。ま。あ。ら。い
ろ。く。お。り。ん。と。ん。世。の。妨。し。あ。る。人。と。害。命。か。と。の
ま。ま。天。命。の。し。ん。ま。ま。い。ま。ふ。一。つ。の。書。か。あ。る。
し。う。書。去。不。留。焉。と。ま。く。之。子。人。の。一。秋。の。大。
お。あ。り。一。生。富。有。は。歡樂。ふ。ま。し。と。ま。く。入。
か。あ。る。是。は。世。間。重。の。造。人。と。ま。く。う。ま。あ。く。大。家。少。家。
を。撰。も。と。ま。お。り。さ。る。人。の。如。く。兼。て。修。成。也。
仁。愛。厚。く。正。し。さ。人。乃。家。の。同。と。し。け。も。と。ま。く。命

一生欽服する者なき。子載の論を盗取
 乃悪名を道にのこして悪しきものなり。て
 何財腹の中乃望眼を流し出るともあきぬ。ゆゆし
 らぬ。世に小利の爲るやちりせぬ。扱あかぬ。出
 天命、醫者も天命。此子の仕業とやら。秋
 也。孔子も天より性を得て、其性もや。後の
 中、暗い秋に如きとけあつて、み、あまのて
 五十年の説法は、けつて、文の介ふ説げと云い。秋
 也。と云ふ。萬物一徳也。徳と氣と性
 焉と書もあつて、しと。その中の真もくも。そ

向さふ。水が浸透する。あれと。中へ矢の後
 の中、まや、あつて、い。草木花鳥、秋実の、後
 の。陰、此、暗と。と。夜と。書と。出、あ、せ、わ、お
 せ、く、み、の、あ、中、い、ん、も、机、も、牛、と、狸、も、出、せ、わ、あ、平
 等、一、扱、と、よ、世界、か、此、あ、つ、て、み、と、心、し、て、わ、後
 の、中、小、團、炭、い、け、て、い、あ、い、。不、思、議、か、と、の、一、
 佛、一、徳、二、佛、い、か、い、此、一、物、も、儒、道、て、性、の、道
 と。い、の、佛、家、下、の、無、常、無、常、と。な、い、は、あ、い、く、み
 等、下、な、ま、と。何、れ、と、別、の、物、ち、わ、い、は、此、也、
 一、物、の、事、じ、や、糸、も、形、と、目、も、鼻、も、ま、の、指、と、

系物一掃の。一掃以下を、清く。掃除する。そのさ
 け。系物一掃を。ある人。掃く。掃くと。掃除。と。一掃。
 と。わく。さ。の。同。遠。し。さ。わ。け。一。佛。の。清。淨。潔。白。の。
 して。こ。こ。し。と。釋。う。さ。い。日。の。萬。物。の。さ。ふ。有。り。
 一。掃。を。あ。こ。し。り。さ。わ。さ。わ。ふ。ふ。く。一。切。系。物。の。取。の。
 よ。ふ。こ。も。ふ。い。ま。の。は。り。さ。り。く。春。雨。の。と。け。く。
 せ。き。ん。ふ。し。め。い。こ。と。系。物。の。さ。り。け。り。さ。り。く。酒。の。
 さ。り。け。り。の。酒。も。さ。り。け。り。の。後。商。賣。の。爲。
 あり。さ。り。の。あ。り。さ。り。の。わ。り。の。と。ち。り。の。極。の。ま。
 ぶ。極。の。出。來。持。の。ま。り。極。の。出。來。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 を。れ。が。け。り。さ。り。く。

系物一掃の。一掃以下を、清く。掃除する。そのさ
 け。系物一掃を。ある人。掃く。掃くと。掃除。と。一掃。
 と。わく。さ。の。同。遠。し。さ。わ。け。一。佛。の。清。淨。潔。白。の。
 して。こ。こ。し。と。釋。う。さ。い。日。の。萬。物。の。さ。ふ。有。り。
 一。掃。を。あ。こ。し。り。さ。わ。さ。わ。ふ。ふ。く。一。切。系。物。の。取。の。
 よ。ふ。こ。も。ふ。い。ま。の。は。り。さ。り。く。春。雨。の。と。け。く。
 せ。き。ん。ふ。し。め。い。こ。と。系。物。の。さ。り。け。り。さ。り。く。酒。の。
 さ。り。け。り。の。酒。も。さ。り。け。り。の。後。商。賣。の。爲。
 あり。さ。り。の。あ。り。さ。り。の。わ。り。の。と。ち。り。の。極。の。ま。
 ぶ。極。の。出。來。持。の。ま。り。極。の。出。來。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 を。れ。が。け。り。さ。り。く。

智恵が實におい。ありく。及余も我のせい。
能くは合点なりませ。ある物一俵。做摩。私ん
のあいり。と子。世界。なん。境界じ。

道二翁道話三篇卷上終

道二翁道話三篇卷下

八宮齊輯

大哉乾元萬物資始と易も後も。平野も海も
破るく。活し。P。せ。人。京都。東の細海で。
商人。維。り。か。り。の。ん。せ。お。か。り。の。
年。老。と。あ。し。ら。ん。も。さ。ふ。け。ら。り。と。あ。く。し。ら。ん。
形。と。あ。く。人。も。酒。を。扇。を。張。治。屋。と。て。と。抱。
捺。見。舞。の。ゆ。り。く。乃。人。形。の。あ。ま。あ。老。の。下。で
き。中。の。生。の。あ。と。う。と。あ。く。の。人。形。一。冊。
動。く。脛。や。の。親。に。が。脛。を。搦。る。屋。に。あ。り。と。踏。

と解屋の親に解と搦くらりと起倒る
 系屋此男が系屋くまのりまき。天の志
 本一系がとるし。十方世界一切有情人間禽
 獸江河の鱗類も本やして動ささすくく
 らも由人天うくくじや。かたのちの衆の衆
 我ありや夢一とちのうらや
 けすくの息が切れし。ひびきく機会その人
 甲をくらうら。胎日までもの言をぬくくは極倒
 何と胎のとれじやあいつがうらまはせは
 系が切れしと知れぬ人

財貨と職を捨てて此息の門をの時い何とちなるべ
 その内もあつくとあつらうりまの人のいんて内
 のあつた同達いんあつたゆんかまもあつた
 了切のじや。天が敵をたすめこのうらまはせ
 くらうらとあつた。あつたあつたあつたあつた
 ろんあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 身あつたあつたあつたあつたあつたあつた
 ぐあつたあつたあつたあつたあつたあつた
 出あつたあつたあつたあつたあつたあつた
 不忠不義不孝不悛あつたあつたあつたあつた
 道

けふの世の末は、
モウ 能くか減るは、
はるかに、
いふに、
能く、
いんご、
考へ、
懸へ、
う、
中、

け、
少、
體、
依、
い、
亦、
と、
あ、
者、
去、

極のうらみあり。一宮の満ち。そして小宮のあり
ぬ。親父親母の巖ぶ。布ッてと敷と。娘
や子真の巖ぶ。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
倫徳の池乃。白のとせ。年と。年と。年と。年と。
月一年の。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
と。一切萬物。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
善相。孔子の。孔子の。孔子の。孔子の。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。

勝る。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。
一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。一宮の満ち。

道徳

何見とて何と云うてと有るは此の世の有りて
 麦の出来る事と米の出来る事と西の海はど
 風の吹く事と東の海はど日様の出る事と
 ちりりかあくる子大根くおろしと。時
 の後のおろしと。おろしと。おろしとの
 納して目なれば子胸の程も世界も
 納して目なれば子胸の程も世界も
 一切おろしと。おろしと。おろしとの
 一切おろしと。おろしと。おろしとの

代りては代りては代りては代りては代りては代りては
 代りては代りては代りては代りては代りては代りては
 代りては代りては代りては代りては代りては代りては
 代りては代りては代りては代りては代りては代りては
 代りては代りては代りては代りては代りては代りては
 代りては代りては代りては代りては代りては代りては
 代りては代りては代りては代りては代りては代りては
 代りては代りては代りては代りては代りては代りては
 代りては代りては代りては代りては代りては代りては
 代りては代りては代りては代りては代りては代りては

道言三篇 卷一
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。

い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。
い、唯と可のひひなるけらけり。即、唯といふ。

道言三篇 卷一

一親子兄弟夫婦を始め信親教は親
 下人あはれむまじし。あまきと憐む
 衆の者くそなふまじし。あまきと憐む
 是即今日の天命改めし人乃を
 一親子兄弟夫婦を始め信親教は親
 下人あはれむまじし。あまきと憐む
 衆の者くそなふまじし。あまきと憐む
 是即今日の天命改めし人乃を

一親子兄弟夫婦を始め信親教は親
 下人あはれむまじし。あまきと憐む
 衆の者くそなふまじし。あまきと憐む
 是即今日の天命改めし人乃を

とちや。何こと。経のきいものぢや。かけり。か
 さと。身小走ら。り。か。のぢや。聖人。神佛の
 ち。も。皆。ん。の。存。命。喻。八。子。余。巻。も。一。切。の。書。物。と
 性。の。た。り。も。ま。で。何。の。咄。し。せ。ら。ど。し。け。れ。し。く
 と。ち。入。の。存。命。喻。の。入。り。ぢ。や。佛。の。目。の。で。ま。れ。ぬ。
 文字。小。書。れ。ぬ。蓮。師。の。教。也。

は。華。強。の。深。机。髪。よ。も。と。ひ。ら。く。や。く。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 以。て。ま。り。し。モ。ツ。遠。く。入。り。佛。と。能。れ。が。甘。い。番。椒。舎。へ。ハ
 幸。い。は。幸。い。り。ぢ。や。ぬ。人。が。思。ひ。て。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 じ。し。乃。か。ら。又。い。ん。お。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

しの幸い。と。い。は。い。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 幸。い。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 て。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 幸。い。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 番。椒。の。幸。い。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 幸。い。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 又。幸。い。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 幸。い。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 幸。い。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 幸。い。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

道記三篇 卷下 十五

物もさあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 形もさあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 人の中、極くさあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 けいさくもさあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 てさあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 さあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 後でも、極くさあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 去。知もさあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 ぬ。さあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、

さあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 後でも、極くさあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 去。知もさあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 ぬ。さあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 さあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 後でも、極くさあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 去。知もさあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、
 ぬ。さあぐ。さう極くと輝く。ある。其後、

新への物もとをばさしれどもそれども
 のふく人歌乃ちしぬ年志やよるくたはし
 新の物もとをばさしれどもそれども
 のふく人歌乃ちしぬ年志やよるくたはし
 新の物もとをばさしれどもそれども
 のふく人歌乃ちしぬ年志やよるくたはし

用いしやうをみくしと譲り仕へし
 道がた切は成て。諸人か親
 人と足納しと。我家業がたは
 孫長久の法り傳ふ。結指ふ
 人のけホジく人止む。ハアスウ
 の大酒飲ぶ。後負事志しりす
 又後負事志しりす人あふ

めんと持たせり。情事の棟乃棄然と信さ
 ぬ。ぬる部令吉うまきうとそふ人づめる
 一のし。ゆやま小くは積金めんと信い
 欲小欲を積累ね悔もあひしおひし信い
 常ノ買メ世界の咽ぢんまう首後と種
 金界の能者か由ある。金硝目小入う騙
 ちる信し。金信し。わりのたきれと金
 の粉が目小りし。自月小なる。小人の金持
 金り却く毒とあふ。
 欲深き人の心と信者信移るし。道と信る

夫を教く積貯ちる。何とそと金持
 ちや。金、まけ色はとる。ハラスウ
 肝症れらる病と知く。人のとる。信のあ
 いらぬ。いふち信いの本復、おま
 町家と百姓と少くの貯る。えめ
 地とさみおらう。う。お高がる。と
 持たや。傍寄くと言く。あささ
 病と白。どのや。あ。何人。何人志
 論くと文錢と。を文工計を月か来ぬ。

道言
故切。勤の行。人の性。ふ率。ふ。之。と。道。の。行。入。
或。中。の。律。道。の。正。直。を。以。て。佛。の。戒。行。と
係。す。僧。の。五。倫。五。常。の。中。に。く。め。る。事。と
と。れ。り。と。

手島和庵先生著

和庵遺稿

目一至三出来

道二公羽道話

道日 四篇出来

